

フランスの教育農場について

パリ事務所

クレアパリ事務所では、地方自治体等の関係者が、フランス、ベルギー、スイス（フランス語圏）における先進的な政策を調査する際のアポイントメント取得、通訳の手配、職員の同行等の活動支援を行っています。

2011 年度、当事務所で行った活動支援のうち、当事務所職員が同行した観光・環境政策、農業政策、地域振興（地域ブランドの確立）に係る調査案件について 3 回にわたり紹介しています。

第 2 回目の今回は、フランスの教育農場に関する取り組みです。これは、農業者が子どもたちに対し、日常的に摂取している食物はどのように作られているのかを知ってほしいと願い、20 年ほど前に取り組みが始まったものです。

■ フランスの農業教育

フランスの学校教育では、子どもたちを農業や自然、環境問題に親しませるために、農場を訪れる授業が行われています。この授業の受け入れ先になっている農場は「教育農場」と呼ばれ、グリーンツーリズムの活動の中でも、特に教育的要素が強い活動であると考えられています。子どもたちは、農場の訪問を楽しみながら、農場で触れる家畜や農作物を通して、食物がどのように生産されているかを学習しています。



関係者からの聞き取り調査

今回の調査は、このようにフランスで行われている教育農場の現状について、農業従事者である Armelle CROZIER（アルメル・クロジエール）さん、教育農場を総括・指導・資格授与する団体『Bienvenue · la Ferme』（農場へようこそ）の

Florence LUCAS（フローレンス・ルーカス）さん、そして小学校で子どもたちに対し農業に関する教育を行なっている Aurore PERRELLE（オロール・ペレール）さんから聞き取る形で行われました。

■ 教育を目的とする農場

フランスの教育農場は、2001 年 4 月 5 日の省庁公式通達により、児童の教育や、学校に通う青年、その他特別な学校をしっかりと迎え入れ、そのような活動が発展することを目的に現在の構造が定義されました。

教育農場は3つのタイプに明確に分けられています。それは、それぞれの農場における農業生産高の割合で等級付けられているものです。

(1)農場

教育を目的として収入する額の割合が40%未満であり、農業生産額が60%以上である農場

(2)混合農場

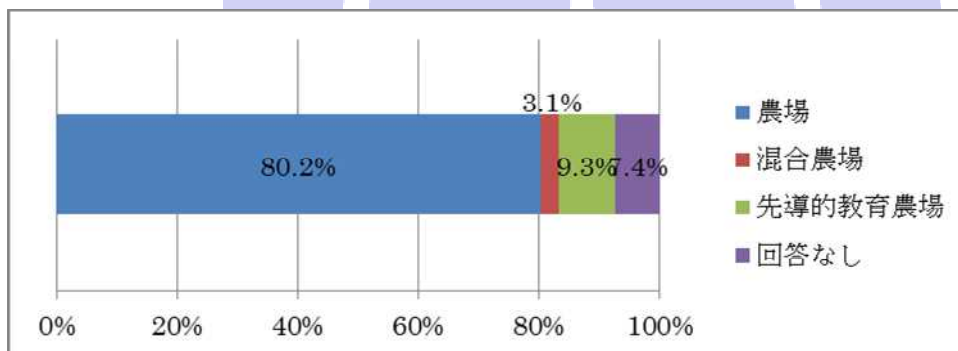
教育を目的として収入する額の割合がおよそ40~60%である農場

(3)先導的教育農場

教育を目的として収入する額の割合が60%を超える農場

2007年、Belgerie National（ベルジュリー・ナショナル）が、フランス国内の1,362の教育農場を調査した結果によると、上記分類割合は以下のとおりとなっています。

- (1)農場 80.2%
- (2)混合農場 3.1%
- (3)先導的教育農場 9.3%
- (4)回答なし 7.4%



教育農場の分類割合

つまり、教育農場とは言っても、そのほとんどが農業生産を主にを行い、その傍ら教育的活動を行っているのが現状です。

また、これら農場は、単独で経営することは少なく、いくつかの農場を束ねるネットワークに所属して経営を行っています。そのネットワークの中で最も大きなものが、フランス国内に85の中継点を持ち、教育農場全体の約半数にあたる715の農場が属している『Bienvenue・la ferme』（農場へようこそ）という団体です。

■ 農業者の取りまとめ役『Bienvenue・la ferme』（農場へようこそ）

本団体の主な活動としては、今回訪問したような農場のプロモーションや研修を行うとともに、Giteと呼ばれる農家民宿の予約管理や広報活動を行っています。各拠点には、宿泊施設の予約担当者や農場案内担当者など数名の職員がいますが、ローヌ県の拠点には、教育農場を専門に担当する職員が1名（前述のルーカスさん）で勤務しています。このよ

うに教育農場の担当を専門におくことは非常に珍しいということであり、当該県がいかに力を入れているかがよくわかります。

『Bienvenue・la ferme』のネットワークに加入するためには、アグリツーリズムに関して多様な計画を有しており、活発に行動していることが求められます。加入に際しては、活動内容に関する”診断”が行われ、条件を満たす農場に対し、ネットワークは助言を行い、その農場における計画が実現するまでに必要となる取組みを共に進めるとともに、一定のクオリティを保てるようコントロールすることになります。

今回訪問したローヌ県においては、学校での教育とレジャーを目的として教育農場ネットワークの活用を推進しており、昨年は『Bienvenue・la ferme』に登録している 19 の農場を、およそ 28,000 人の子供たちが訪れています。今回はその中の一つであり、先導的教育農場を経営する La Ferme des Gones (ゴン農場) を訪問しました。

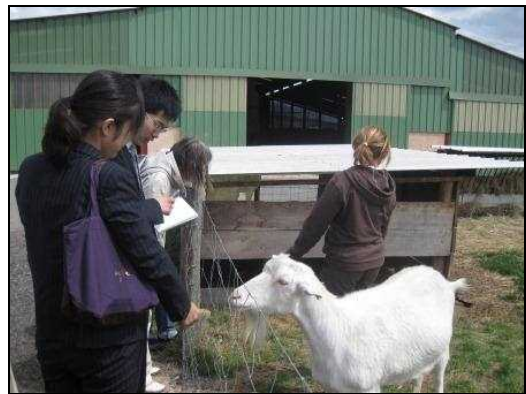
■ ある教育農場の取組み

ゴン農場は、面積 221ha の農場で、酪農、畜産、穀物(小麦、大麦、菜の花、ライ小麦)の栽培を行っています。実は、この農場は、最初から先導的教育農場として経営していたのではなく、元々は農産物生産を主に行っていました。しかし、現在の農場主に代替わりした約 5 年前、経営の先行きを心配し、新たな分野として先導的教育農場経営に移行したとのことでした。

農場の視察は、リヨン市内の学校がそのほとんどを占め、3~8 月中旬にかけてはほぼ毎日、9 月は週 2、3 回、11~1 月は週に 1 回障がいを持った子どもたちを中心に受け入れられています。障がいを持った方が動物に触れあうことは、教育の一環として非常に有効であるということで、2010 年は 1 年間で 203 グループの視察を受け入れたとのことでした。実際、私たちが調査を行った日の午後も障がい者のグループが農場を訪問しており、動物と楽しく触れ合っていました。

視察の年齢分布については、小学生が 10%、保育園児が 40%、そして 12 歳の子どもが 50%となっています。これは、12 歳つまり中学一年生になったとき、学校における食育の一環として「発酵学」を学ばなければならない、その現地視察ということで農場を訪問するため、全体に占める割合が高くなっているそうです。

なお、リヨンのような大きな都市では、農業に接したことがない子どもが多く、農業は非常に原始的なものであるというイメージを持っているそうですが、視察を通じて、近年の農場は生産から加工に渡る様々な設備を有し、効率的な方法で食物を生産している一つの企業であるというように認識が変わるのだということでした。



教育を目的として飼育される家畜

このように、フランス国内の教育農場は、農場をとりまとめる大きなネットワーク及び食育の一環として農場を必要とする教育関係者と連携し、活発に活動を展開していますが、今回訪れた比較的順調に運営されている農場においても、教育農場としての経営は非常に厳しく、県などからの補助金なしには運営できない状態だといえます。しかし、近年、農業者を取り巻く環境は厳しくなる一方であり、経営の多角化を求められる農家にとって、このような新たな取組みを推進することは非常に重要な課題となっています。

次回は、農産物認証制度(AOC)を活用した地域活性化についてをお届けします。

(林所長補佐 岐阜県高山市派遣)

クレアパリ事務所における活動支援

欧州における公共交通、環境、文化・芸術、農業、福祉その他先進的な取組み等を調査される際は、是非パリ事務所の海外活動支援をご利用ください。

【当事務所が提供する主な支援】

- ・ 訪問先とのアポイントメント取得
- ・ 訪問先への質問事項の伝達
- ・ 訪問先への資料提供の依頼
- ・ 通訳の斡旋
- ・ 当事務所での資料提供
- ・ 当事務所での概要説明
- ・ その他（当事務所職員の同行等）



欧州に広がる新交通システム

【当事務所が提供するその他支援】

- ・ 出張者への執務スペースの提供
- ・ 事務机、会議室、応接室、パソコン（インターネット利用可能）
- ・ 事務所備品（パソコン、コピー機、ファックス、プロジェクター等）の利用・貸出
- ・ 物品の受取り及び一時的な保管
- ・ JET¹-OB（日本で語学指導等を行ったことのある経験者）の紹介
- ・ ニュースレターへの自治体パンフレット等の同封
- ・ 当事務所が主催・参加するイベント等での自治体パンフレット等の配布

※申込み等詳細は、下記 URL をご参照ください。

<http://www.clairparis.org/ja/action/support.html>

¹ JET プログラム（「語学指導等を行う外国青年誘致事業」The Japan Exchange and Teaching Programme）とは、外国語教育の充実や地域レベルでの国際交流を推進することを目的として世界各国の外国青年を各地域に招致する、世界最大級の国際交流事業です。CLAIR では、総務省、外務省、文部科学省と連携し、JET プログラムを推進しています。

